

情報連絡員報告総括表 (平成27年11月分)

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向 (前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>(臨時・パートを含む)</small>			業界景況		
		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化
製 造 業	食料品		4			4		1	3			4		2	2		3	1		4				3	1		2	2
	繊維工業		2	1		3		1	2			3		2	1		2	1		2	1			3			1	2
	木材・木製品			1			1		1			1			1		1				1			1				1
	紙・紙加工品		1	1		2			2			2		1	1		2				2			1	1		1	1
	印刷			1		1				1		1			1		1				1			1				1
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品	1	1	1		2	1		3			3		3			3			1	1	1		3			3	
	鉄鋼・金属		1			1			1			1		1			1				1			1				1
	一般機器		1	2	1	2			3			3		3			3			3			3			2	1	
	電気機器			1		1				1		1			1		1			1			1			1		1
輸送機器		1			1			1			1		1			1				1		1					1	
その他																												
小計		1	11	8	1	17	2	2	16	2		18	2		13	7		17	3	1	11	8		18	2		10	10
非 製 造 業	卸売業	1		1		2			2			2			2			2					2			1	1	
	小売業	1	2	3	1	5		3	2	1		5	1		2	4		3	3				6			4	2	
	商店街		1			1		1				1			1			1					1			1		
	サービス業	1	3	1				2	3			4	1	1	3	1		4	1				1	4		1	3	1
	建設業	2	2						4		1	3		1	3		1	3					4			1	3	
	運輸業		1						1			1		1			1						1				1	
	その他		1						1			1			1			1					1				1	
小計		5	10	5	1	8		6	13	1	1	17	2	3	12	5	1	15	4				1	19		2	14	4
合計		6	21	13	2	25	2	8	29	3	1	35	4	3	25	12	1	32	7	1	11	8	1	37	2	2	24	14

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(平成26年11月～平成27年11月)

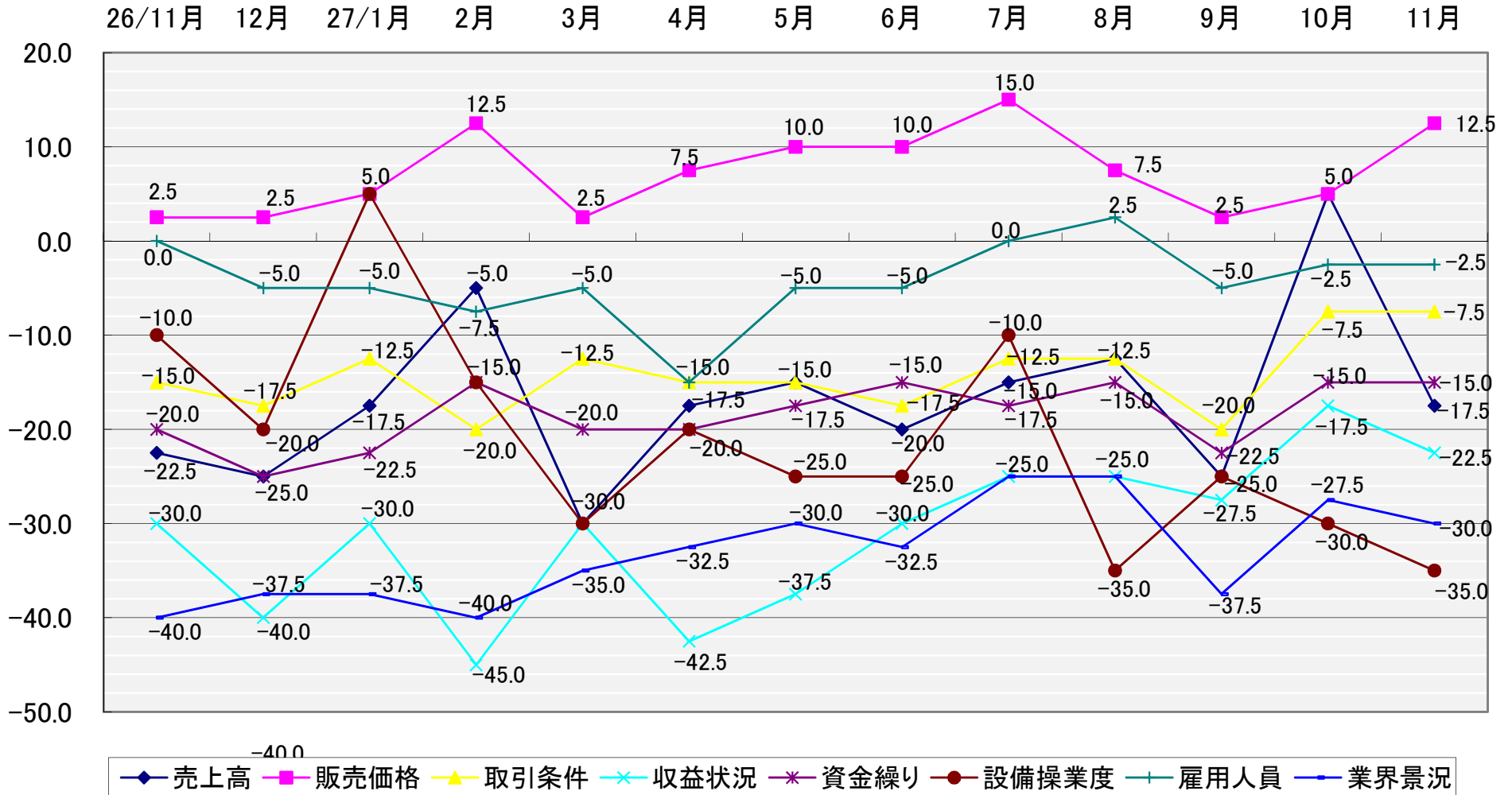
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	26/11月	12月	27/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	増減
売上高	-22.5	-25.0	-17.5	-5.0	-30.0	-17.5	-15.0	-20.0	-15.0	-12.5	-25.0	5.0	-17.5	-22.5
販売価格	2.5	2.5	5.0	12.5	2.5	7.5	10.0	10.0	15.0	7.5	2.5	5.0	12.5	7.5
取引条件	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-12.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-12.5	-20.0	-7.5	-7.5	0.0
収益状況	-30.0	-40.0	-30.0	-45.0	-30.0	-42.5	-37.5	-30.0	-25.0	-25.0	-27.5	-17.5	-22.5	-5.0
資金繰り	-20.0	-25.0	-22.5	-15.0	-20.0	-20.0	-17.5	-15.0	-17.5	-15.0	-22.5	-15.0	-15.0	0.0
設備操業度	-10.0	-20.0	5.0	-15.0	-30.0	-20.0	-25.0	-25.0	-10.0	-35.0	-25.0	-30.0	-35.0	-5.0
雇用人員	0.0	-5.0	-5.0	-7.5	-5.0	-15.0	-5.0	-5.0	0.0	2.5	-5.0	-2.5	-2.5	0.0
業界景況	-40.0	-37.5	-37.5	-40.0	-35.0	-32.5	-30.0	-32.5	-25.0	-25.0	-37.5	-27.5	-30.0	-2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成27年11月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	醤油味噌	組合員の1社がタイ国での醤油新工場を完成させ、竣工した。一方で現在40組合員の内、1組合員が今年で業務終了予定であるため、来年度脱退見込みがあり、39組合員となる予定である。
		豆腐	11月にしては気温が高く、加工物(油揚げ、厚揚げ、がんも等)の売れ行きが不振である。
		麺	製麺業界は商品特化を図り、商品の絞込みをする必要に迫られている。伊勢うどんを業界の柱に取り組む必要がある。今後各種イベントを通して、積極的に売り込んでいく必要があり、伊勢・志摩サミットを通して全国に認知してもらえよう取り組んでいく。
	紙・紙加工品	紙器段ボール箱	年末商品の動きも少なく、低調なまま推移している。
		古紙	11月期の仕入量も前月と変わりなく、前年比で段ボール：約97±5%、新聞・チラシ：約90±7%、雑誌・雑紙・その他合わせて：約91±7%の中での推移であった。段ボール箱の重さが軽くなっていくにも関わらず、流通箱量が増えているようで、段ボール古紙の集荷は落ち込みが少ないようである。新聞雑誌類の集荷は、製品の流通量減少と古紙流通の多様化で相変わらず悪い。古紙の持ち去り行為も鉄スクラップ価格の暴落を受け、更に未だ活発に活動中である。5年以上に亘り指導や対策を講じているが、持ち去り行為を止める気も反省もない。仕返しを覚悟の上でよく調べて具体策を試みるしかない。暖冬の11月を終えて冬の到来となり、景気の先行きに不安が付きまとうが、冬物需要が伸びることを期待している。製鉄原料の底値が見えつつあり、近い将来古紙にも底値が来るように思う。フランスを筆頭に資本主義連合国とI Sとの戦争を契機に中国のバブルと金融機構や共産党の崩壊も予見され、コツコツ更なる努力をしていく。
	印刷	印刷	原材料の値上げが製品価格に反映できない。入札物件等は更に値下げ競争もあり、厳しい状況にある。
	窯業・土石製品	伊賀焼	11月に入っても、暖かい日が続く、ガソリン価格が安いと、関東や遠方からの来館が多い。伊賀焼伝統産業会館及び伊賀・信楽古陶館とも今月は昨年並みの売上であった。9月10月と好調が続けば普通は大きく落ち込むものであるが、今年は上記の影響もあってそれがあまりない。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界全体の生産量としては10月とほぼ同様であったが、扱う品物の種類によって増加傾向にあるもの、逆に減少傾向にあるものと違いが出た。ただこの中部圏は全国と比べ比較的落ち込みが少なく、安定している。また、半導体関連は10月同様で推移し、この状況が暫く続きそうであるが、年明けに来年度以降の状況が見えてくるとと思われる。
	一般機器	北勢	今年は組合員の1社が長年の事業を自主廃業という形で会社を閉じた。素晴らしい技術を持っていた会社であり、非常に残念である。更に当組合の副理事長が病気により逝去し、組合運営にとって大きな損失となった。
		北勢	一般機械器具製造業は、全体的に少し上向きになってきた。特に建設・土木関連資材の受注の動きが再び活発になってきた。
		南勢	海外(特に中国)の景気が減速し、売上等に影響してきており、不透明感が日増しに強くなってきている。
	電気機器	南勢	昨年同時期に比べれば発注量としては上昇しているが、コスト競争は激しく、収益状況は減少している。12月～3月までの追い込み発注を期待している。
輸送機器	北勢	取引先から提示された今年度下期の部品需要の更新版は、当初提示よりも需要数がかなり減少している。特に欧州向け車種に使用している部品では半減しているものもあり、世界的な景気の後退感を強く感じる。	
非製造業	小売業	青果	野菜はキャベツ・白菜・ほうれん草・レタスは好天に恵まれ、安定して入荷し、トマトも順調に生育して値下がり期待できる。後半は比較的暖かい日が多く、ほうれん草・レタス・キャベツの出荷量も多く、安値であった。また鍋用の野菜の需要も少なく、白菜、大根がお買い得であった。果物はみかんが極早生(ごくわせ)から早生(わせ)みかんに切り替わり、味も良い。柿は次郎柿、富有柿(ふゆうがき)が安くて美味しい。リンゴはサンふじがやや高値であった。後半はイチゴは気温が高めであったので、順調に生育し、お値打ちである。サンふじの入荷も増え、味も良い。みかんは安値であった。
		自転車	各メーカーより、2016年度通学車の発表があり、どの店も少しずつ展示し始めた。昨年と同種の商品で3,000円～5,000円程の価格上昇となっており、売り手にとって大変厳しいと感じる。組合員が少しずつ減少していくなか、今年度も11月11日に「消費税増税に負けない経営戦略」と題して研修会を開催したところ、70名程の参加者があり、大変勉強になったとの情報も届いた。

非製造業	小売業	家電	11月は天候が不安定で比較的暖かい日々が続き、暖冬傾向である。そのため、エアコンや冬物暖房器具の動きが鈍く、各地区で合同展示会を開催しているものの、前年の販売確保が厳しい状況である。このような中、明るい話題として4Kと大画面テレビや省エネタイプで大容量の冷蔵庫・健康食育を提案した炊飯器・電子レンジ等の調理家電や掃除機等の生活家電製品が検討されており、付加価値の高い商品が貢献している。今後、年間最大の需要期を控え、秋のキャンペーンの総顧客訪問活動で収集した見込み情報等を活かしつつ統一個展を実施し、的を得た実需活動を推進し、販売増進につなげていきたい。
		石油	11月度の三重県のガソリン販売数量は、前年対比95%前後と10月後半以降から販売が減速し、11月に入ってから原油価格等の下落により、店頭販売価格も下がったが、販売数量が伸びない状況であった。販売価格が割安になっても、需要の減少に歯止めがかからない要因としては、ハイブリッド車の普及や、燃料節約による軽自動車の利用度が多く、予想以上のスピードで市場を変えているのではないかとと思われる。12月は年末商戦であり、景気上昇と合わせて需要回復を期待したい。
		スポーツ用品	伊勢志摩サミットの話しが段々大きくなってきた。三重県も6億程の予算を出すようだが、観光産業はそれなりの利益が出ると思われるが、我々の業界は全く関係がない。警備の為、市民生活が円滑に行くように考えて欲しい。5月は春の体育大会が多いので、心配である。
	商店街	熊野	9月から商店街内の朝市イベントにて使える地域振興券を活用した「いこらいスーパーお買物券」も今回で3回目。市内での認知度も高くなり、3回の開催中一番の売上を記録した。またコラボイベントとして南紀歯科医師会と三重県衛生士会尾鷲南紀支部、まちの保健室の協力を得て「健康診断スタンプラリー」も開催した。他にも周辺地域の「よさこいソーラン」の8チームが出演し、賑わいを見せた。
	サービス業	旅館	今年の秋のシーズンは天候にも恵まれ、北勢・中勢地区は紅葉を訪れる方や、「なばなの里」のイルミネーションによる集客効果で賑わっていたようである。またインバウンドの団体客（中国人が多い）が関西では宿泊先が取れず、東名阪道のIC近くのビジネスホテル等は活況を呈していたようである。伊勢志摩地区は昨年より少し低調であった。
		飲食業	近年の外食での店選びの情報源としてインターネットを利用するスタイルの定着により、「グルメサイト」や「クチコミ」を多くの消費者が活用している。全国飲食連合会でも、Webサイトによる店舗検索機能を拡充することとして、全国組合加盟店の情報を、「安心・安全の店」として、特に今後増加する外国人旅行者へのインバウンド対応にも併せ、整備することとしている。
		警備業	稼働率は大変良いが、人員不足で売上が伸びない。
	建設業	内装工事業	前月と同じく、11月度は売上等が前年対比で増加となった。このまま年末まで好転になりそうな予想である。
		水道工事業（北勢）	11月度に関しては特段大きな変化は見られないが、仕事量としては減少傾向にあると考えられる。
	運輸業	トラック	輸送量は前年と変わらず、内需の弱さを感じる。燃料が値下がりした分が収支に貢献した。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	助成金等の情報を今後とも教えて欲しい。
一般機器	北勢	株価の上昇を景気好転という向きがあるが、大半が外国のスペキュレーターに操作されている。日本の株価が景気のパロメーターとはとても思えない。
	南勢	以前も記載したが、国の補助金や助成金制度は非常に煩雑で使い勝手が悪い。設備投資を促すことが目的なので、一般事務員でも簡単に申請できるようにして欲しい。
小売業	スポーツ用品	円安と中国国内の賃金の上昇により、スポーツ用品の価格が上昇している。学校体育の用品もほとんどが外国産で値上がり激しいが、学校事務の方で理解できない人が多いので困っている。
サービス業	旅館	11月下旬に大阪旅行業協会の幹部の方より、来年三重県、特に伊勢志摩地域はサミットが終わるまで送客を控えて、他地方への企画・プラン設定をしていると聞いた。このままではサミットも逆効果になりかねないため、実情を早急にPRする必要がある。
運輸業	トラック	国内の消費拡大を望む。